

工事名： 富山公共下水道下富居排水区下富居二丁目地区下富居貯留池築造工事

[公共57]

記

質問	回答
<p>サンドコンパクションパイルとH形鋼中間杭は平面位置関係にて重複している箇所がみられる。H形鋼中間杭の油圧バイプロ打設はN値25程度内において打設可能であるが、サンドコンパクションパイル施工後のN値はどの程度を想定しているかお教え願いたい。</p>	<p>仮設計算上、中間杭の位置は切梁交点の四方いずれとしても問題無いことから、平面位置関係でサンドコンパクションとH形鋼中間杭が重複する箇所については、中間杭の打設位置をずらすことができます。 サンドコンパクションパイル施工後の現地盤層における想定N値では50～55となる層が2m程度ありますが、その他の層は20以下となる層が大半を占めており、積算基準上のH形鋼中間杭の油圧バイプロ打設の適用範囲がN値50未満となっていることから、改良後のN値もあくまで想定値であり、施工可能な範囲と考えております。設計と現場条件に相違が発生した場合は、受注者と協議します。</p>
<p>地下水位が高いうえに、サンドコンパクションパイルの施工後において砕石杭の透水性が高く杭周辺からの湧水の可能性があると思われる。そのうえ、上記に記載したように砕石杭と中間杭が重複している箇所からの湧水も想定されるため水中ポンプによる水替えが 困難な場合、ウエルポイント工等他の施工による設計変更が可能かどうかお聞きしたい。また、設計に計上してある水替え工の日数を教えていただきたい。</p>	<p>水替えに係る仮設方法について、設計と現場条件に相違が発生した場合は、受注者と協議します。また、水替え工の日数は181日計上しております。</p>
<p>25H鋼矢板打込において縦継ぎの継施工で計上してあるが、その場合の設計上の曲げ応力度を教えてください。</p>	<p>慣用法により算出した設計上の曲げ応力度は、$167.6\text{N}/\text{mm}^2$となっており、母材部の許容応力度$270.0\text{N}/\text{mm}^2$は満足しますが、現場溶接部の許容応力度として想定する$135\text{N}/\text{mm}^2$は超過するものとなっております。そのため、加えて弾塑性法により許容判定を行い、全長18.5mの鋼矢板に対し、6.5mと12.0mの交互継施工とすることで問題ないことを確認しております。</p>
<p>膨張性止水材塗布工について内訳書の内容には材料費、加工費が計上されていますが現場における施工、又は工場にて施工し搬入を行うことを想定されているのかお聞きしたい。現場での施工においては別途、養生施設(屋根材組立等)及びクレーン等(ハット型はセクション部が裏返っている為、膨張剤塗布後養生し、裏返した後膨張性止水材塗布を行う)が必要であること。工場での施工においては搬入時における梱包が必要(湿気にて膨張してしまうため)であること。</p>	<p>膨張性止水材塗布工については、現場による施工を想定しております。現場での施工については、晴天時に膨張性止水材塗布することとし、養生施設は計上しておりませんが、別途ブルーシート等の養生費を計上しております。また加工費として鋼矢板の吊り上げとしてラフタークレーン、取廻し作業員としてとび工を計上しております。設計と現場条件に相違が発生した場合は、受注者と協議します。</p>
<p>異形鋼矢板製作にあたり4枚製作に対し鋼矢板母材は8枚必要となるので、本体仮設工の異形鋼矢板材料費は4枚→8枚では？</p>	<p>鋼矢板母材は8枚で計上してあります。材料費算出根拠はコードV7400の内訳を参照ください。実際に使用する異形鋼矢板は4枚ですので材料費(使用枚数)は4枚としております。</p>